

「教職の魅力創造プラットフォーム会議」に参加して

鎌水 浩二（山形県立山形西高等学校教諭）

1. 「教職の魅力創造プラットフォーム会議」について

教員志望者、特に小学校教員志望者の減少が話題になってしばらく経ちます。ついに倍率が2倍を割り込んだというニュースが大きく報じられたのが、令和2年度の採用試験だと記憶しています。そんな中で、学校教員を社会に送り出す役割の大学側から、「教職の魅力」を多くの高校生に伝えるための取り組みをしていただいていることは非常にありがたいことであり、機会があつて私もこの会議の末席に加えていただきましたことを嬉しく思っております。

高校教員としての目で様々な取り組みを見た時、特に「小学校教員体験セミナー」をありがたく感じております。教育学部の教員養成系というのは、その職に就くことを目的としてカリキュラムが作られているという点で、生徒たちは入学後の進路変更が難しいのではないかという不安を抱えているように感じます。よって、現時点で本当に教員という仕事に決めていいのかと悩み、迷うのだと思います。その背中を押してくれるのが「小学校教員体験セミナー」であり、そこで自分の目標に迷いがなくなるにせよ、改めて自分の将来について考え直すことになるにせよ、非常に貴重な機会だと感じます。

「学びのフォーラム」は、今年度ならば「できる」「考える」「遊ぶ」ということについて改めて考えてみる機会であり、高校生にとっては難しい内容もあるかもしれませんが、そういったことを話し合う場に立ち会うことで、教員という仕事のもう一つの（しかしながら本質的な）役割に気づく機会になると思います。

多くの教員は、自分の学校生活の中で出会った先生に魅力を感じて、教員を目指そうと考えたのだと思います。「聞き書きプロジェクト」は、恩師の話を聞いてまとめることで自らの教員としてのスタンスの基礎を築くという、非常に大きな意義のある企画だと感じました。それは教員として現場に立ち、自分の教員としてのあり方に迷った時、改めて読み返すことで、初心に立ち返るきっかけを与えてくれるものにもなり得ると思います。院生だけでなく、ぜひ学部生にも行ってほしい取り組みだと感じました。

先生方の取り組みに大いに刺激を受け、今後も現場の一高校教員として、教員を志す生徒たちが増えていくことに、少しでも貢献できればと考えております。

2. 「教職の魅力」とは何か？

会議に参加させていただいたことで、改めて「教職の魅力」とは何かと考えてみました。私が高校生から大学生の頃は就職氷河期ということもあり、教員になりたくてもなれない人たちがたくさんいた時代でした。「教職の魅力」ということをわざわざ取り上げずとも、人が集まった時代です。しかし現代は教職という仕事に魅力があるだけでなく、「働き方」としても魅力がなければ選べない時代になってきました。確かに仕事は大変です。それでも、やはりどんどん成長していく人たちを間近で見ることのできるこの仕事は魅力的ですし、苦勞に見合う喜びがあることは確かです。この先は行政の役割ではありますが、ぜひ働き方の面でも魅力ある仕事であってほしいと願います。